

子どもたちが輝き、地域とともに学びを創造する オンリー1があふれる学びのプラットフォーム 杉一小

ビジョン2

災害に強く、防災の要となり、持続可能な自然環境に配慮した施設とする。

ビジョン1

豊かな教育環境を目指し、子どもたち一人ひとりが輝ける、安全で安心な学び舎をつくる。

ビジョン3

世代を超えて多様な区民が出会い、自発的で協働的な関係が広がる学びを創造できる場にする。

目標5

自然災害に備えた堅牢で安全な場を確保し、防災拠点としての機能が十分に発揮される施設とする。

目標6

自然に配慮し、周辺地域と調和した、環境にやさしい施設と設備とする。

目標1

子どもたちが自ら考え判断する力を伸ばし、進んで学び、充実して過ごすことができる学習環境を整備する。

目標2

自他を尊重し、あたたかく人間性豊かで、多様な体験を子どもたちに提供できる教育環境を整備する。

目標3

子どもたちが明るく活発に、のびのびと心と体の健康づくりに主体的に取り組めるような活動の場を整備する。

目標4

安全に配慮し、高いセキュリティを備え、子どもたちや教職員が安心して快適に過ごせる環境を整備する。

目標7

地域と共に歩んできた伝統と特色を継承し、子どもを真ん中に地域とのかかわりを広げ、次代を創る学びに柔軟に対応できる、持続可能な造りとする。

目標8

多様な施設・設備を活用し、賑わいのあるまちと共生し、多世代が学び合える施設とする。

取組

- 子どもたちと地域の防災教育と意識向上に活かせる施設とする。
- 発災時に迅速かつ安全に避難できる施設とする。
- 防災井戸やマンホールトイレを備える等、震災支援所として必要な整備をする。
- 浸水被害を抑止し、防災拠点として、地域との連携が速やかに行える施設とする。
- 校内に必要な備蓄品を確保する。

取組

- ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化やエコスクール等に対応し、環境教育にも配慮した施設とする。
- 景観と調和し、花と緑を楽しめる空間を整備する。
- 自然環境との調和に配慮し、武蔵野の屋敷林の面影が残る、自然教育に適した場を創出する。
- 周辺地域の住環境に配慮した施設とする。

取組

- 全ての子どもたちが学び合い、可能性を引き出す個別最適、協働的な学びとなる多様な学びのスタイルに適應できる施設とする。
- 学校図書館や理科室等の特別教室を、子どもたちの好奇心を刺激する造りにする。
- ICT教育環境の充実と、円滑な授業運営に対応できる基盤を整備する。

取組

- 学年を超えた交流ができ、地域の力を活かした杉一小らしい、学びと憩いの空間を設ける。
- 光、風、緑を感じ、木の温かみが実感できる造りとする。
- 多文化共生とユニバーサルデザインに配慮した施設とする。
- 命の尊さを伝え、自然観察にも繋がる動植物と触れ合える場を拡充する。
- 歴史と伝統に相応しい、杉一小の顔となる場を設ける。

取組

- 防塵機能を備えた、広く良好な環境の校庭整備を行うなど、子どもたちがのびのびと運動し、羽を伸ばせる空間を設ける。
- ジュニアバンド等の活発な音楽活動や資機材の運用にも耐えうる、防音に対応した十分なスペースを設ける。
- 思い切り体を動かして利用できる遊具を充実させる。
- 更衣室やロッカー等、子どもたちの自立につながる空間や環境を整備する。

取組

- 子どもたちを守る防犯カメラ等の安全設備を設け、充実したセキュリティを備える。
- 諸室の配置や造り、収納スペースの充実、教職員の働きやすさも考慮する。
- 冷水機や簡易に腰掛けられる場所等を要所に設けるとともに、リラクセスできる環境を整備する。
- 緑豊かで安心して通れる歩行者空間を整備する。

取組

- 学校を支える地域の関わりと、活動支援の促進を図るため、関係諸室を充実させる。
- 地域が子どもたちと共に歩き支えるすきつきくらぶや放課後の居場所となる場を整備する。
- 児童数や教育カリキュラム等、将来の変化に対応できる柔軟性を確保する。
- 文学と文化が息づく阿佐谷のまちと調和した学び舎とする。

取組

- 子どもたちの学びと区民の多様な学びが共存できるよう、子どもたちの活動に支障をきたさない諸室配置と動線確保を行う。
- 駅に近い利便性を活かして、多様な利用者を想定し、区民の学びや交流の場としても活用できる施設計画とする。
- 阿佐谷ジャストリート等、イベントで利用できる、地域に開かれた施設とする。

杉並区立杉並第一小学校改築基本計画

沿革

明治8年に開校し、今年度、創立149周年を迎えた杉並第一小学校は、長い歴史と伝統を持ち、地域の教育力を組織化した学校支援本部との協働による特色ある教育活動が全国的にも高く評価されている学校です。

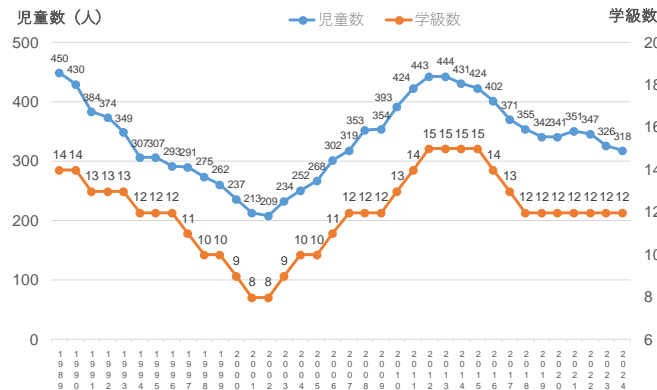
今後、令和11年4月の開校に向け、土地区画整理事業の仮換地指定に沿って、A街区内からC街区内に移転改築工事を行います。



普通教室

児童数・学級数のグラフの推移のとおり、平成元年から現在までの間は、12～15学級で変動しており、また、杉一小推計では、当面は増加傾向が予想されています。

学区域には阿佐ヶ谷駅もあり、人口密度が高い地域でもあることから、少子化の流れの中でも児童数が増となる時期があることを想定する必要があります。



このため、過去10年で15学級となったこともあることから、12～15学級での推移を見込み、普通教室は15室を整備するものとします

杉一小推計	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
児童数(人)	327	332	334	339	368
学級数	12	12	12	12	12

改築基本方針検討のプロセス

改築基本方針(裏面)を策定するに当たっては、学校関係者、地域関係者等で構成する懇談会を立ち上げ検討を行いました。検討に当たっては、あさがやまちづくりセッション(テーマ：杉一小)や、子ども達や教職員へのアンケートを行い、寄せられた意見等を参考としました。

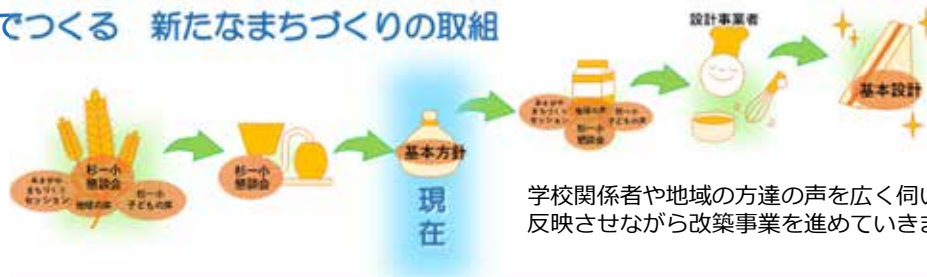
杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会

団体名等	氏名	団体名等	氏名	団体名等	氏名	団体名等	氏名
首都大学東京 名誉教授	深尾 精一	学校支援本部	伴野 博美	阿佐谷地区町会 連合会	田中 昭一	PTA	長谷川 篤男
早稲田大学 創造理工学部 建築学科 教授	高口 洋人	学校運営協議会	村上 徹也	震災救援所	近藤 浩	PTA	遠藤 美穂子
阿佐谷北一丁目町会	宇都野 正朔	学校運営協議会	岡田 円治	進交会	細田 宗宏	校長	山口 祐美子
阿佐谷北二丁目町会	佐藤 文夫	学校運営協議会	竹越 不可止	学童クラブ保護者	松崎 彰	副校長	杉田 英昭
阿佐谷北三丁目町会	徳田 紀美子	学校運営協議会	松尾 純一	PTA	武田 幸彦	副校長	小島 昭博

開催	内容	日程等
1	小学校の特色・概要、改築に至る経緯の説明	4月19日
2	事例見学(桃井第二小学校、杉並第二小学校)	5月28日 6月3日
3	基本方針(たたき台)の検討	6月26日
4	基本方針(最終案)検討と改築規模等の説明	8月5日



みんなで作る 新たなまちづくりの取組



学校関係者や地域の方達の声を広く伺い、段階的に反映させながら改築事業を進めていきます。

あさがやまちづくりセッション(テーマ：杉一小)

令和6年6月9日開催 参加者24人

子どもの声アンケート調査

杉並第一小学校全児童315名を対象に実施

教職員アンケート調査

杉並第一小学校全教職員を対象に実施

地域の声

杉並第一小学校やC街区等の整備について寄せられました

今後のスケジュール(予定)

現在の総合病院棟が解体撤去された後、C街区内で杉並第一小学校の建設工事に着工します。



改築基本方針 コンセプト

子どもたちが輝き、地域とともに学びを創造する オンリー1があふれる 学びのプラットフォーム 杉一小
新時代の「学び」と「縁」を醸成する「プレイスメイキング」



*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

配置比較

豊かな教育空間を確保しつつ、街との繋がりをつくる駅側校舎案

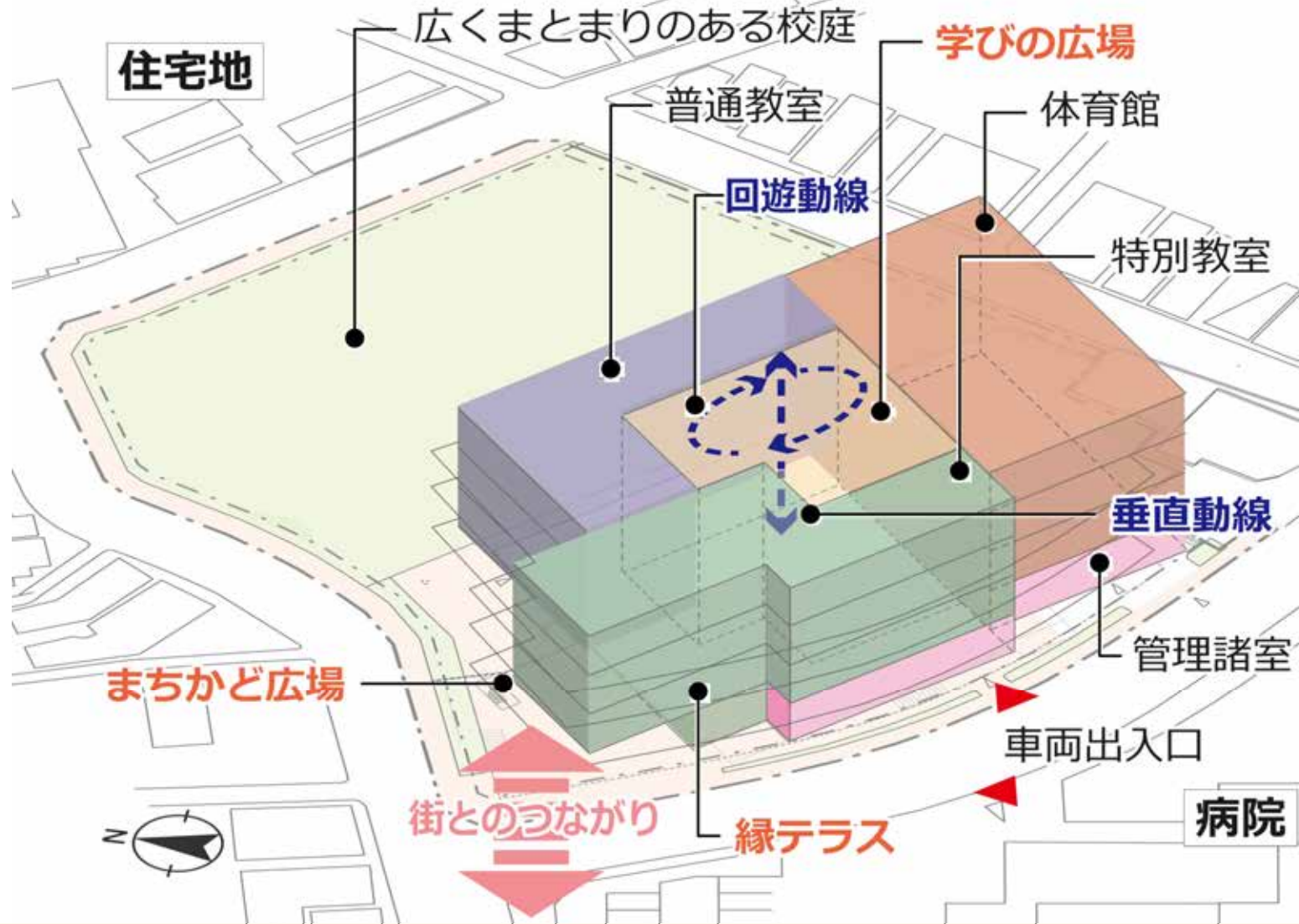
	病院側校舎案	病院側校庭案	その他（L型校舎案）
配置図			
校庭の広さ	広くまとまりのある校庭	広くまとまりのある校庭	もっとも校庭が狭い
校庭の日照	午後は校舎の影あり	午後は病院の影あり	午後は校舎の影あり
普通教室採光	北東（安定採光）	南西（病院側）	南東
街とのつながり	病院方向に校舎を配置	病院方向に校庭を配置	病院～北東側に校舎を配置
日影の影響	敷地外への日影は少ない	敷地外への日影あり	敷地外への日影あり
防災連携	防災の軸に校庭出入口あり	防災の軸に校庭出入口あり	防災の軸に校庭出入口なし
歩車分離	車両出入口病院側	車両出入口住宅側	車両出入口病院側

- ・配置比較、図の左上が北です。校庭と校舎、敷地を上下、左右、に分ける使い方があります。
- ・評価項目の内、特に、「校庭の広さ」のまとまりや、病院からの影響が少ない校庭の「日照」と、常時病院に向かって開いていない教育環境、そして、「街」とつながりやすく、建屋の「日影の影響」が最も少なくなる案、病院側校舎案を採用しました。

ビジョン1 豊かな教育環境を目指し、子どもたち一人ひとりが輝ける、安全で安心な学び舎をつくる。

目標1 子どもたちが自ら考え判断する力を伸ばし、進んで学び、充実して過ごすことができる学習環境を整備する。

建物のブロック構成 自由に使える広場を中心とした、まとまりと広がりのある学校



校庭面積を最大限確保する為、校舎をコンパクトにまとめ、その構成要素は、普通教室、特別教室、体育館、1Fの管理諸室です。そして中央に回遊性を持たせた垂直動線があり、ここを「学びの広場」と呼び、入り口に「まちかど広場」や、建屋外周に「縁テラス」を設けました。

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン1 各室構成図 3F、4F、5F



- ・ブルーに塗った部分が「普通教室」群、グリーンに塗った部分は「特別教室」群で、中央に「学びの広場」があります。
- ・図周辺のイラストや写真は、学校の様々な活動のシーンです。普通教室の前のワークスペースに子供たちの居場所をつくり、そこにお手洗いが出ている、子供たちだけのDENや、吹き抜け側からのぞける体育館などがあります。

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

■ 能動的な学習スタイルへの教育の変化

- 平成10年の学習指導要領改訂により知識教え込み型から、「児童自ら学び自ら考える力などの**「生きる力」**の育成へ、**教育基調の転換**が示されました。
- 平成29年改訂では「生きる力」を育むため、知識の理解の質を高め資質・能力を育む**「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」**の視点での**授業改善を目指す方針**とされています。
- 令和3年中央教育審議会答申により、**新型コロナウイルスの感染拡大**など「予測困難な時代」に、子供たちの可能性を引き出す**「個別最適な学び」と「協働的な学び」**の実現を提唱しています。このように**学習のあり方**は、教室での一斉講義形式の受動的な学習スタイルから、児童が自ら学習に関心を持ち、他者との対話や情報の探究を通して知識や考えを深めていく**能動的な学習スタイルへの変化**が強く求められています。

**主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）
の視点からの授業改善について（イメージ）**

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる**「主体的な学び」**が実現できているか。



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める**「対話的な学び」**が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう**「深い学び」**が実現できているか。

アクティブ・ラーニングによる
授業改善イメージ(文科省)

こちらは、**授業改善のイメージ図**ですが、**子供たちの可能性を引き出す「個別最適性」と「協働的な学び」**が問われていて、**従来の教室での一斉講義**から、こどもが、**対話や探究を通して、知識や考えを深めていくスタイルへの変化**が強く求められていることがわかります。

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

■ オープンスペース (WS) 導入の効果

- ・ オープンスペース (提案/多目的ワークスペース=WS) は、教室と連続し家具等で柔軟に空間構成を変化させる等多様な学習活動が可能になり、**アクティブ・ラーニング/個別最適な学びと協働的な学び**が実現できます。

■ 新しい時代の学びを実現する学校とは？

“Schools for the Future”「未来思考」で
実空間の価値を捉え直し、
学校全体を学びの場として創造する。

- ・ 学校を「教室と廊下それ以外の諸室」という固定観念から脱し「学校全体を学びの場」を捉え直す。
- ・ 教室環境について、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、**横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点 (柔軟性)**をもつ。
- ・ 紙と黒板中心の学びから、**1人1台端末を文房具として活用**し多様な学びが展開されていくように、画一的・固定的な姿から脱し、**時代の変化、社会的な課題に対応していく視点 (可変性)**をもつ。
- ・ どのような学びを実現したいか、どのような空間を創りどう生かすか、新しい時代の**学び舎づくりのビジョン・目標**を関係者同士共有する。

オープンスペースの活用方法

- ・ 教材や作品の展示
- ・ 自由な学習の場の選択
- ・ 習熟度別の取り出し授業
- ・ 配慮が必要な児童のクールダウン
- ・ グループワーク
- ・ 製作・実験
- ・ 成果の発表
- ・ 教え合い

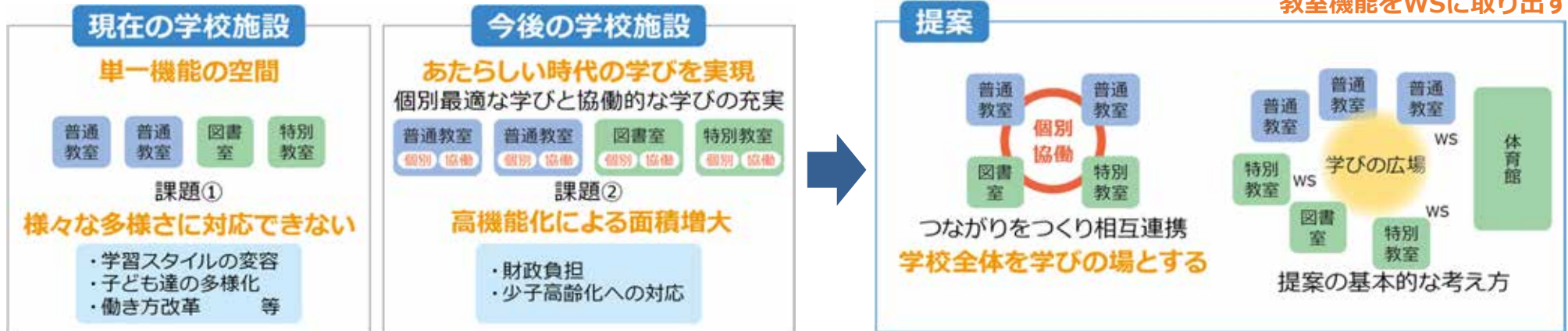
教育への効果

- ✓ **主体的な学び**
 - ・ 教材や他社の成果を見て学習に興味・関心を持つ
- ✓ **個別最適な学び**
 - ・ 子どもの成長やつまづき等に合わせたきめ細やかな指導・支援
- ✓ **対話的な学び**
 - ・ 他者との対話
- ✓ **深い学び**
 - ・ 知識の相互理解
- ✓ **協働的な学び**
 - ・ 他者との関わりを通じたリアルな体験

・ オープンスペース (WS) 導入の効果は、左に活用方法の具体例があり、右に、教育への効果を書き出してあります。
・ 下段には、**新しい時代の学びを実現する**為のポイントが4つあり、これらを意識しながら、**単なる廊下と教室から、学校全体を見直して、実空間の新しい価値を造りあげていきたい**と考えています。



教室機能をWSに取り出す



*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン1 目標2 交流、自然、木質化

豊かな教育環境を目指し、子どもたち一人ひとりが輝ける、安全で安心な**学び舎**をつくる。

目標2 自他を尊重し、あたたかく人間性豊かで、多様な体験を子どもたちに提供できる教育環境を整備する。

内外にひろがる**多様な交流の場**

自然に触れ、季節や時間の変化を感じる学習空間

木の温かみを効果的に伝える適材適所の木質化

・この吹き抜けは、日常的な学年交流や地域交流のきっかけを作り、光庭と併せて、自然を身近に感じる学習空間をつくります。



学校の中心にある「**学びの広場**」

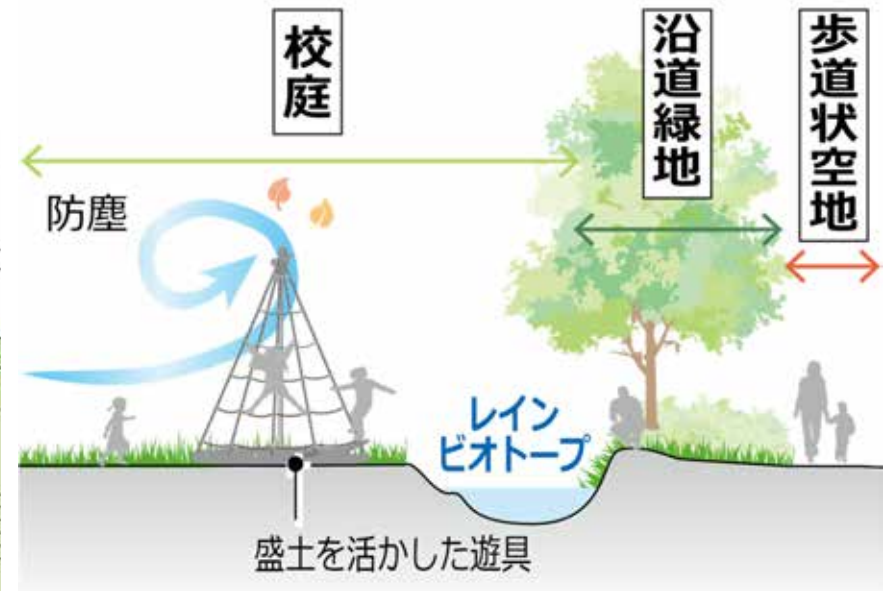
*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン1 目標3 校庭ランドスケープ

豊かな教育環境を目指し、子どもたち一人ひとりが輝ける、安全で安心な**学び舎**をつくる。

目標3 子どもたちが明るく活発に、のびのびと心と体の健康づくりに主体的に取り組めるような活動の場を整備する。

豊かな教育環境と住環境をつくる 校庭ランドスケープ



校庭ランドスケープイメージ

- 校庭は人工芝等、土埃対策を行います。
- 地形生かして雨が降ったときだけ水がたまるレインビオトープは、子どもたちの遊び場や休憩や自然観察の場になります。

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

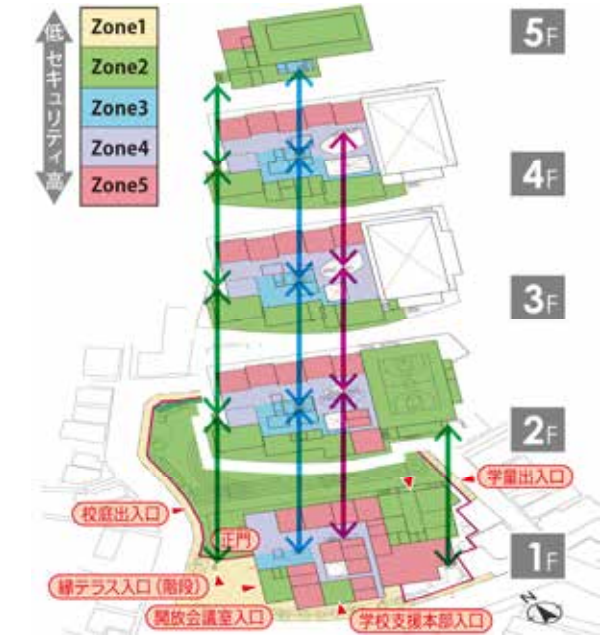
ビジョン1 目標4 見守りとセキュリティ

豊かな教育環境を目指し、子どもたち一人ひとりが輝ける、安全で安心な**学び舎**をつくる。

目標4 安全に配慮し、高いセキュリティーを備え、子どもたちや教職員が安心して快適に過ごせる環境を整備する。



・地域の見守り力も活用して、学校の安全性を高める為、**段階的にセキュリティゾーン**を設け、学校の開き方を調節できるようにしておきます。また、防犯カメラ等も検討してまいります。



低	Zone1	常時地域に開かれている 歩道上空地・まちかど広場
	Zone2	校舎内を経由せずに利用できる 校庭・体育館・外階段・特別教室
	Zone3	普通教室前を経由せずに利用できる 内部階段・EV・学びの広場一部
	Zone4	学校共用部 昇降口・学びの広場
	Zone5	学校諸室 普通教室・職員室・管理諸室
高		

セキュリティゾーンの区分

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン2 目標5 防災、浸水対策

災害に強く、防災の要となり、持続可能な自然環境にも配慮した施設とする。

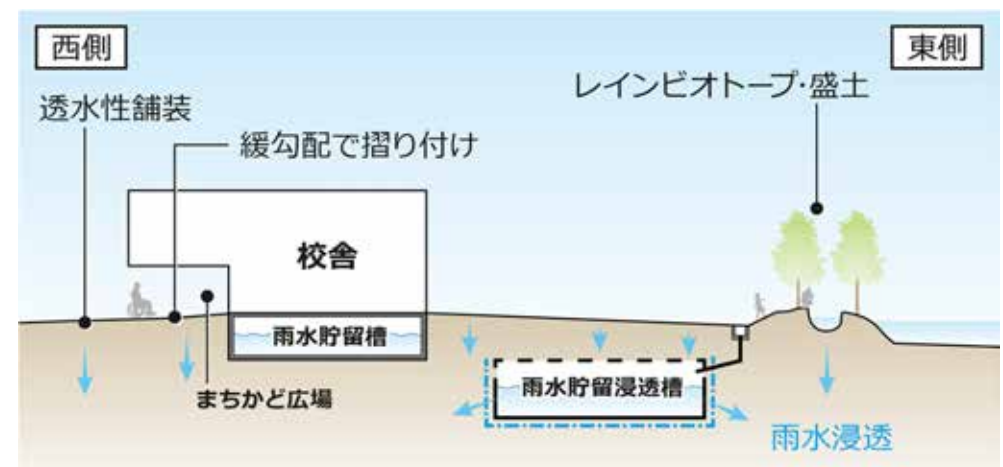
目標5 自然災害に備えた堅牢で安全な場を確保し、防災拠点としての機能が十分に発揮される施設とする。



防災の軸から日常的に見える災害時の備え

敷地と学校の特性を活かした
浸水被害抑止策

- ・ 防災の軸に沿って、災害時の備えとして、マンホールトイレ、防災井戸、校庭への車両の出入口も確保します。病院に隣接した広場もあります。避難場所としての体育館には、外部から直接出入りできる玄関を別に設けます。
- ・ 浸水対策として1FLを上げるので、まちかど広場の奥行きで玄関とのレベル差をゆるやかに擦り付けます。



浸水対策イメージ図

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン2 目標6 学校全体が教材

自然に配慮し、周辺地域と調和した、環境にやさしい施設と設備とする。

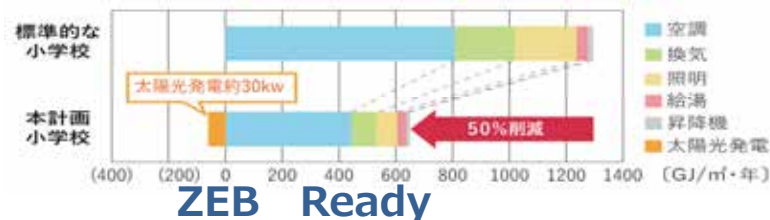
目標5 自然に配慮し、周辺地域と調和した、環境にやさしい施設と設備とする。

目標6 自然災害に備えた堅牢で安全な場を確保し、防災拠点としての機能が十分に発揮される施設とする。

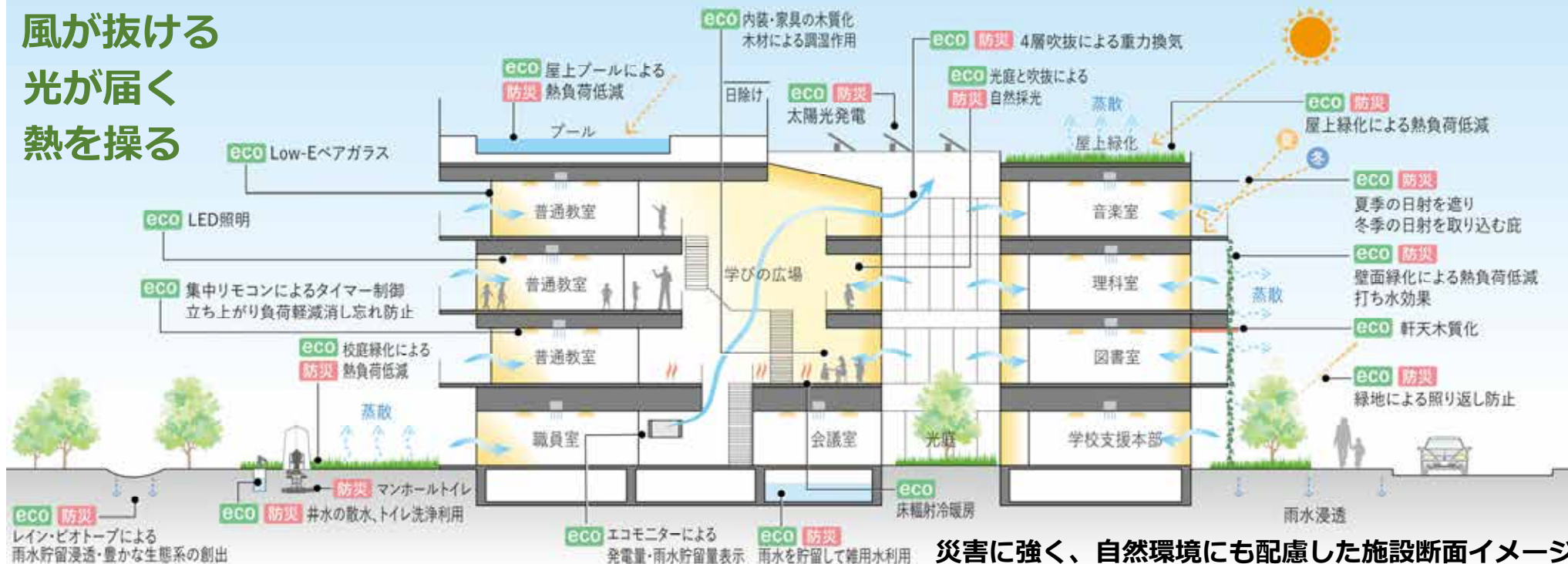
日常のエコがもたらす災害時の弾力性

- ・こちらの図の通り日常のエコが災害時の備えになります。
- ・自然採光や自然通風、庇や緑化等は、電力に頼らない災害時の室内環境をもたらしてくれます。

学校全体が教材となるエコスクール



風が抜ける 光が届く 熱を操る



災害に強く、自然環境にも配慮した施設断面イメージ

学校全体が教材となるエコスクールとして、

まずは外皮の断熱性能を上げ、吹抜きの重力換気や、奥行き深い建物に有効な光庭から、風と共に自然光を取り込みます。また壁面緑化は、蒸散効果もあり、LEDや中間期の空調停止などの、省エネ施策と合わせた効果が期待されます。

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン2 目標6 緑の恢復

自然に配慮し、周辺地域と調和した、環境にやさしい施設と設備とする。

目標6 自然災害に備えた堅牢で安全な場を確保し、防災拠点としての機能が十分に発揮される施設とする。

緑と共生する

・屋上緑化の他、「縁テラス」にプランターを並べた壁面緑化により、病院からの見下げる景色がよくなります。もとの屋敷林の景観恢復にもつながります。

土地の記憶を 継承する木材活用



既存樹木によるアートウォール実績



緑のネットワークのイメージ

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン3 目標7 区民が出会う

世代を超えて多様な区民が出会い、自発的で協働的な関係が広がる学びを創造できる場にする。

目標7

地域と共に歩んできた伝統と特色を継承し、子どもを真ん中に地域とのかかわりを広げ、次代を創る学びに柔軟に対応できる、持続可能な造りとする。

阿佐谷の街を彩り文化を醸成する学び舎



深い軒下空間である縁テラス、この中間領域に積極的な壁面緑化を行い、阿佐谷の街を彩ります。

「まちかど広場」や「縁テラス」で街とつながり、阿佐谷の街に溶け込む学校

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

ビジョン3 目標8 段階的なゾーニング

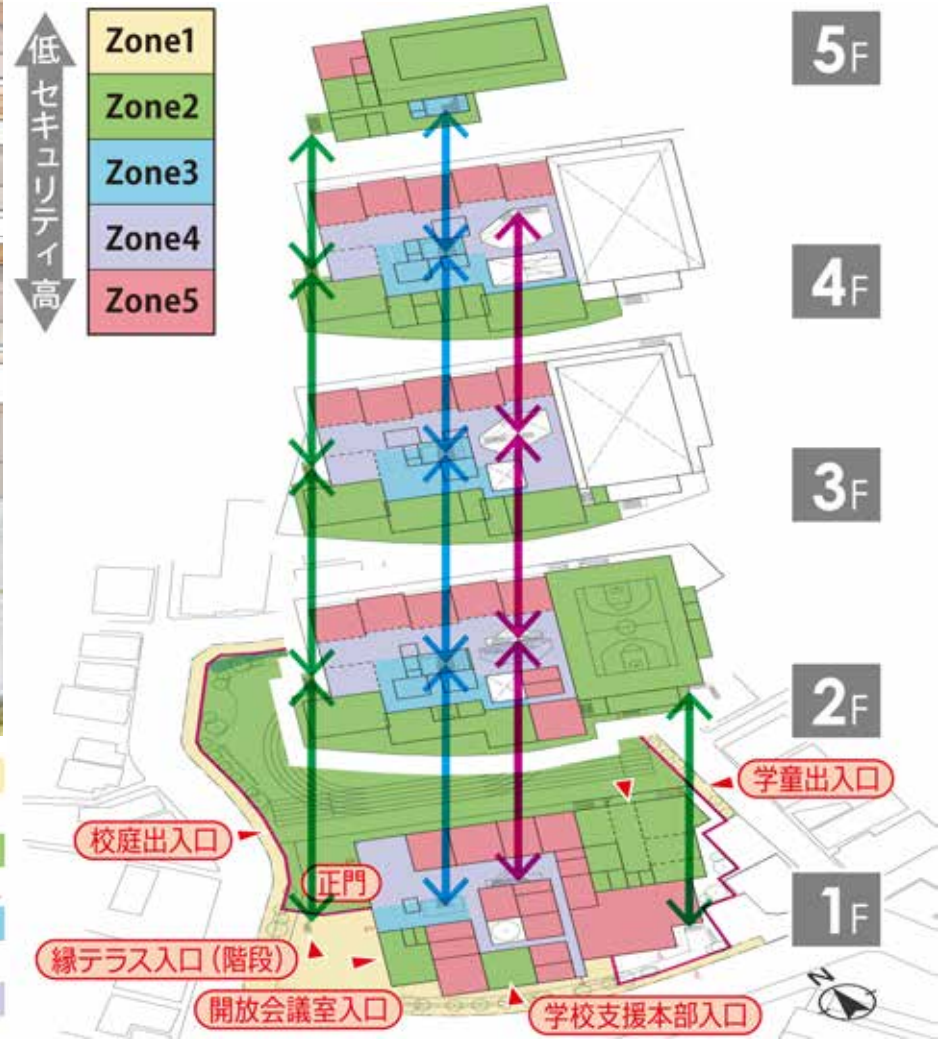
世代を超えて多様な区民が出会い、自発的で協働的な関係が広がる学びを創造できる場にする。

目標8 多様な施設・設備を活用し、賑わいのあるまちと共生し、多世代が学び合える施設とする。

多世代による多様な学びが共存できる建物構成



イベント利用イメージ（阿佐谷ジャズストリート）



・セキュリティについて、この図の通り、ゾーンを5段階にわけ、地域連携と地域開放に備えます。特徴は、緑のzone2です。内部に入らずに外部の縁テラス経由で、直接一部屋単位で利用を可能にした点と、水色のzone3により、学校のプライバシーが高い、紫ピンクzone4、5の普通教室側を除いて、内部の縦動線も利用できる点にあります。

低	Zone1	常時地域に開かれている 歩道上空地・まちかど広場
	Zone2	校舎内を経由せずに利用できる 校庭・体育館・外階段・特別教室
	Zone3	普通教室前を経由せずに利用できる 内部階段・EV・学びの広場一部
	Zone4	学校共用部 昇降口・学びの広場
	Zone5	学校諸室 普通教室・職員室・管理諸室
高		

セキュリティゾーニング図

*図案は、具体的な設計内容を示したものではありませんので、参考としてご覧ください。

子どもたちが輝き、地域とともに学びを創造する オンリー1があふれる学びのプラットフォーム 杉一小



新時代の「学び」と「縁」を醸成する 「プレイスメイキング」



「教え合い、学び合い、かかわり合い」が生まれる
地域の「縁」を巻き込む、唯一無二の「学び」の広場



*図案は、具体的な設計内容を示したものではありません
ので、参考としてご覧ください。